

妙安寺だより 393

5月12日 「」

元年（1261年）、日蓮40歳、鎌倉に於いて、浄土教批判と法華経信仰の確立を布教の中心としていましたが、それらが幕府批判と理解された為、鎌倉幕府に捕らえられ、伊豆の国・伊東へと流罪になった法難を祈念した法要。

日蓮聖人は「、れず」と述べられ、「大難四箇度」を『』といい、その2番目に起きた法難。

流罪当初は念仏者の迫害にあたりして、生活は困難でしたが、（領主）の病気を祈ってさせました。このことにより生活は好転し、弘長3年（1263年）2月22日、され、鎌倉に帰りました。

余談ですが、東京杉並区の妙法寺の日蓮聖人像は「のお」として知られています。これは、流罪の際に出発した浜に流れ着いた流木に、弟子のが日蓮聖人の姿を彫刻し、ご無事を祈念していました。日蓮聖人42歳の厄年の時に赦免となり、戻られた時にその像の開眼を行ないました。厄年に流罪から赦免になった事から、「徐厄けのお祖師様」と呼ばれるようになりました。

5月の行事予定

5月6日(土) 午後2時より 勉強会

お気軽にご参加ください。

5月10日(水) 午後1時より 立正護法会、開催
正午より お

*5月より18時に閉門し、閉門中は番犬を放しています。

*お寺への各種送金に際しては、内訳を必ず明記してください。